

【杉原千畝研究会会員だより】

横浜ツアーから学んだ歴史の一端

(堀 水継)

昨年5月の杉原千畝関連施設を訪ねる都内ツアーに続いて、今回の横浜ツアーに参加した。生憎の雨の朝、バスは新宿西口を9時ジャストに出発。車内では事務局で用意された小冊子の解説により予習も万全。

最初の見学施設、県立歴史博物館へ到着。雨も上がった。ここは明治13年、我が国初の外国為替専門銀行の横浜正金銀行が創設された場所である。一階の展示室で当時の建物や資料を見学。昭和15年頃に難民の方々の中には、ここで渡航先の外国為替を組んだ人もいたことだろう。たった一通の「命のビザ」が役立ったはずである。

次に訪ねたのは氷川丸。この船で開戦前の数年に、何人かのユダヤ難民が渡米した記録が最近発見されたと聞く。しかし氷川丸以外の船舶で渡米を試みるも、不運にも沈められたことを思うと、心が締め付けられる。どれ程の難民が渡米できたかは、現在も調査が続けられているとも聞く。物言えぬ人々の無念に思いを馳せて氷川丸を後にした。

次は横浜マリンタワーである。展望台に上がった参加者は、杉原千畝が平安丸で出航した港を一望したことだろう。私は階下で休息した。

昼食は中華街の萬珍楼で点心料理に舌鼓を打った。同席した稲門の諸先輩から、早稲田大学構内の杉原千畝の顕彰碑設立の経緯などを聞くことができた。最後は横浜外国人墓地に向かう。雨上がりの墓苑はそこはかといない異国情緒を醸し出す。高台の山手門から西側斜面を元町門方面へ下り、ユダヤ人の印、六芒星が刻まれたジョセフ・シムキンの墓にお参りした。難民でありながら難民の為に奉仕した人である。その遺徳に合掌した後、帰路に就いた。

横浜バスツアーに参加して、杉原千畝テーマに対する理解が、また一歩深まったように思う。